

第Ⅰ回 福岡市都市計画マスタープラン改定検討懇話会 議事概要

- 1 日時 令和5年12月1日（金）16:00～18:00
- 2 場所 TKP エルガーラホール 7階 会議室1
- 3 出席者 朝廣委員、有岡委員、坂井委員、辰巳委員、
萩島委員（オンライン参加）、濱崎委員、三谷委員、吉武委員
- 4 会議次第 ① 開会
② 要綱説明・委員紹介
③ 意見交換
④ 閉会

5 委員からの意見概要

発言者	意見概要
委員	・この10年間で、マスタープランが策定され、天神ビッグバンなどの計画が進み、福岡市が躍動する姿を見せていることはすごいこと。 ・建設中のものが将来どうなるのかなど、街全体の将来像を、3次元で市民に分かりやすく見せられるようにならないか。 ・科学技術立国の西の拠点として、イノベーションをどう位置付けるかが重要であり、九大伊都キャンパスやアイランドシティのほかにも位置づけを検討する必要があるのではないか。 ・人口はいずれ減っていくため、将来を見越した上では、人口が増えることと減ることを一緒に考えていくことが重要であり、都市圏を含めて都市づくりを検証する必要があるのではないか。
委員	・都心部の開発が進み、福岡が発展する一方で、これまでの天神の顔がなくなり、高齢者などの市民にとっては、天神に対する親しみが薄れてきているのではないか。 ・今後、少子化が深刻になることを踏まえると、若者が暮らしやすい街になるように検討する必要があるのではないか。 ・大都市ならではかもしれないが、日常生活圏で自分たちの街を良くしようという熱意や活動が少ないように感じている。
委員	・キャッシュレス化は、決済だけでなく、データは在庫管理や需要分析にも活用でき、データに基づいたまちづくりにもつながるのではないか。 ・企業の中では、財務情報だけでなく、企業のサステナビリティなどの情報開示が求められており、福岡市もこのような指標を打ち出しても良いのではないか。

発言者	意見概要
委員	・ 今後 10 年を目標年次とする場合、福岡市の課題は都市のスポンジ化というよりは、混雑緩和などの従来の視点が、次の 10 年も中心になるではないか。 ・ 一方で、特に土地利用は時間がかかることもあり、将来的な人口減少への準備は必要で、マンションの建替えといった課題にも取り組む必要がある。 ・ 容積率を上限近くまで使用しているマンションが老朽化しており、天神ビッグバンのような容積率のインセンティブがなければ、マンションの建替えが進まないのではないか。 ・ 今後増加する人口の受け入れ先は、郊外ではなく、マンションの建替えと合わせて、公共交通の維持にも繋がる鉄道沿線や幹線道路沿道などで吸収するような方向性を打ち出していけばいいのではないか。 ・ 福岡市は第二次産業が発展しておらず、理系の若者の就職先があまりない状況であるが、将来の税収にもつながる理系の雇用を生むような土地利用は考えておくべきではないか。 ・ 福岡と言って思い浮かぶ景色がないため、インパクトのあるものをつくるのにインセンティブが働くようにして、民間活力で観光資源ができていくようなことを盛り込んでいけばいいのではないか。 ・ 近年のトレンドとなっている、SDGs や Well-being などのキーワードは盛り込んだ計画にしてもらいたい。 ・ 道路を減車化して歩行空間を広げるような、都市アセットのり・デザインなどの視点も必要と思う。
委員	・ 九州の人口維持などの観点も含めて、九州における福岡市の位置づけという視点は持っていた方が良い。 ・ 福岡市内では郊外であっても、都市圏では街中かもしれないので、都市圏の人口増減を含めて整理した方が良い。 ・ 今後、外国人居住者が全国的に増えていくので、異文化の方々と共に住むということまちづくりとしては考えておく必要がある。 ・ 天神ビッグバンや博多コネクティッドは、ビルの建替えだけでなく、街がどう変わるのかというイメージを、模型なり CG なりで簡単に見られると良い。
委員	・ 豪雨については、周辺の都市化が進むほど、河川の下流にある福岡市の負担が大きくなるため、防災は広域的な視点で見ておいた方が良い。 ・ 災害に強い街になっていると思うが、レジリエンスの観点では、コミュニティのつながりが重要になる。 ・ 社会基盤については、中心部は浸水対策などで強化されているが、周辺の古い市街地の脆弱になっている部分は強化が求められる。 ・ 地震については、中心部に警固断層があるが、その備えは進められていると感じており、これまでの取組みを継承して進められれば良い。
委員	・ 緑の観点では、基本的にはこれまでの取組みを引き継ぎ、今後、いかに緑の質を向上させるかがポイントになる。 ・ 近年、公園は充実してきたが、管理費用が据え置かれ、緑の質が低下している。 ・ 植栽の樹種が多様化しており、外来種の増加に対して、生物多様性の観点から対応を検討する必要があるのではないか。 ・ 立体公園制度や Park-PFI など、活力のある取組みも出てきているが、質の高い緑地は、周辺のアセットの向上にもつながるため、都市経営の観点から、もう少し緑の質に着目していいのではないか。 ・ 都市マスにおいても、拠点において高い緑化率の再開発を誘導するといった視点も必要になるのではないか。

発言者	意見概要
委員	・福岡市内では、住宅戸数が増えても全体のエネルギー消費量は下がっており、断熱性の高い建物や新しい設備に置き換わっていると考えられるが、古い性能の建物が一定量は残るため、断熱改修などの誘導が必要ではないか。 ・交通は炭素排出の約3分の1を占めており、都市の魅力を維持しながら、交通をより効率化することが必要になってくるのではないかな。 ・今後、定住する外国人の割合が高くなることも重要な視点になるのではないかな。
委員	・都市計画法と必要なまちづくりの間にずれが生じてきており、都市計画マスタープランは双方を繋げる位置づけにしないと、抽象的で分かりにくいものになってしまう。 ・関連計画との役割分担もあると思うが、市民が都市計画マスタープランを見たときに、自身の居住の仕方や働き方、福岡の街がどうなるのかといったことが分かるよう、関連計画の内容にはみ出して、イメージを出しても良いのではないかな。
委員	・まちづくりの主体と役割分担については、近年、産官学民の4者による共働のまちづくりということが言われている。 ・産については、農業の保全を考えると、農業や漁業といった第一次産業の面でも見る必要がある。 ・官については、福祉の分野では、行政ではなく、住民が取り組む新しい公共ということが言われており、行政が用意するウェルフェアだけでなく、市民目線のウェルビーイングが重要となる。 ・学については、学生がまちづくりに参加することで、子どもから高齢者までの多世代がつながり、将来を考える視点が活かされるし、学生はデジタル化にも強い。 ・民については、日々の生活が豊かになるようにといった視点がある。 ・現在のマスタープランにおけるまちづくりの主体と役割分担の枠組みは、考え直す必要があるのではないかな。
委員	・誰もが豊かに暮らせるまちづくりを、デジタル化やWell-being、ダイバーシティ、インクルージョンなどを含めてどのように実現していくのかという視点が必要ではないかな。 ・都市で完結するのではなく、農山漁村と連携し、食の安全保障や災害対応などについて、ハードウェアとソフトウェアが連携した取り組みが必要ではないかな。
委員	・人口減少を止めるために新しい産業を呼び込むことを考えると、福岡市で起業しようという流れをつくることも大事で、既に支援体制は充実しているが、様々な人に使ってもらえる仕組みづくりも大切である。 ・データ分析に基づく農業や先端技術を用いた場所を取らない農業など、デジタルを様々な場面で活用し、産業を呼び込み、つくっていくような流れも今後は必要となるのではないかな。
委員	・福岡の人は新しいものが好きで、古いものを壊してしまう傾向にある。 ・建物が高品質でないと歴史的に価値のあるものにはならないので、都市計画で優遇を受けられるようにするなど、歴史的な建物が生まれてくる土壌をつくっておくことが重要ではないかな。
委員	・博多、天神の魅力は歴史の重層性や多様性にあり、百年の計の中で、歴史・文化のマネジメントを考えるべきではないかな。
委員	・下水道整備や河川改修などの対策により、豪雨災害のリスクは下がっているが、内水氾濫等のリスクがあり、都市の農地をある程度保全することも考えておいた方が良いのではないかな。

発言者	意見概要
委員	・周辺市町村の市街化により、土地の涵養量は減少しており、内水氾濫が起こる可能性は高まっている。 ・緑地を確保するなど、人口減少の過程の中で、古い住宅地などをどのようにアレンジしていくかが重要となるのではないかな。
委員	・将来の雨量が想定を超える可能性がある中で、複合的な防災対応として、河川改修だけでなく、農地や遊水池の確保についても、都市計画マスタープランに打ち出していくことが重要である。
委員	・都市計画に関するデータをオープンデータ化するとともに、データを上手く活用して、許認可などの行政の判断を迅速に行うことは、官民連携の中でも重要である。
委員	・DX とはデジタルデータを共有し連携することで、新たな物事が生まれることであり、役所が率先してDX 化し、まちづくりに活用していくことが大切ではないかな。 ・個人情報の課題はあるが、DX によって Well-being につなげられないかを検討してもらいたい。

以